

令和8年度 早期水稻の生育について

令和8年7月3日
環境農業推進課

1. これまでの生育概況

(1) 育苗期（2月下旬～4月下旬）

播種は2月中下旬頃より始まり、概ね平年並みであった。育苗では3月～4月上旬にかけて気温が平年並～高めで推移し、一部で苗立枯病の発生がみられたが、生育はおおむね平年並みであった。

(2) 移植時期

移植は3月下旬頃から始まった。移植開始後から断続的に降雨があり、一部地域で植え付けの遅れがみられたものの、おおむね平年並みで移植された。

(3) 移植後（3月下旬～6月下旬）

4月から5月前半にかけて気温が平年並み～高めで推移し、5月上中旬は日照時間も多かったことから、活着および生育は順調に進んだ。

5月後半から6月第一半旬まで、高温かつ気温日較差は小さく、少照で経過したため、草丈は長く、茎数は少ない傾向であった。梅雨入りは平年より3日早く、6月の日照時間は平年より少なく経過している。6月2日夜から6月3日未明にかけて、台風6号が接近し、強風による葉の裂傷や葉先枯れが広範囲で発生したが、その後回復傾向にある。

病害虫については、スクミリンゴガイによる被害や、葉いもちの発生が散見されるが、大きな被害には至っていない。

6月15日時点の生育は、草丈は長く、茎数はやや少なく、生育進度は平年よりかなり早い。

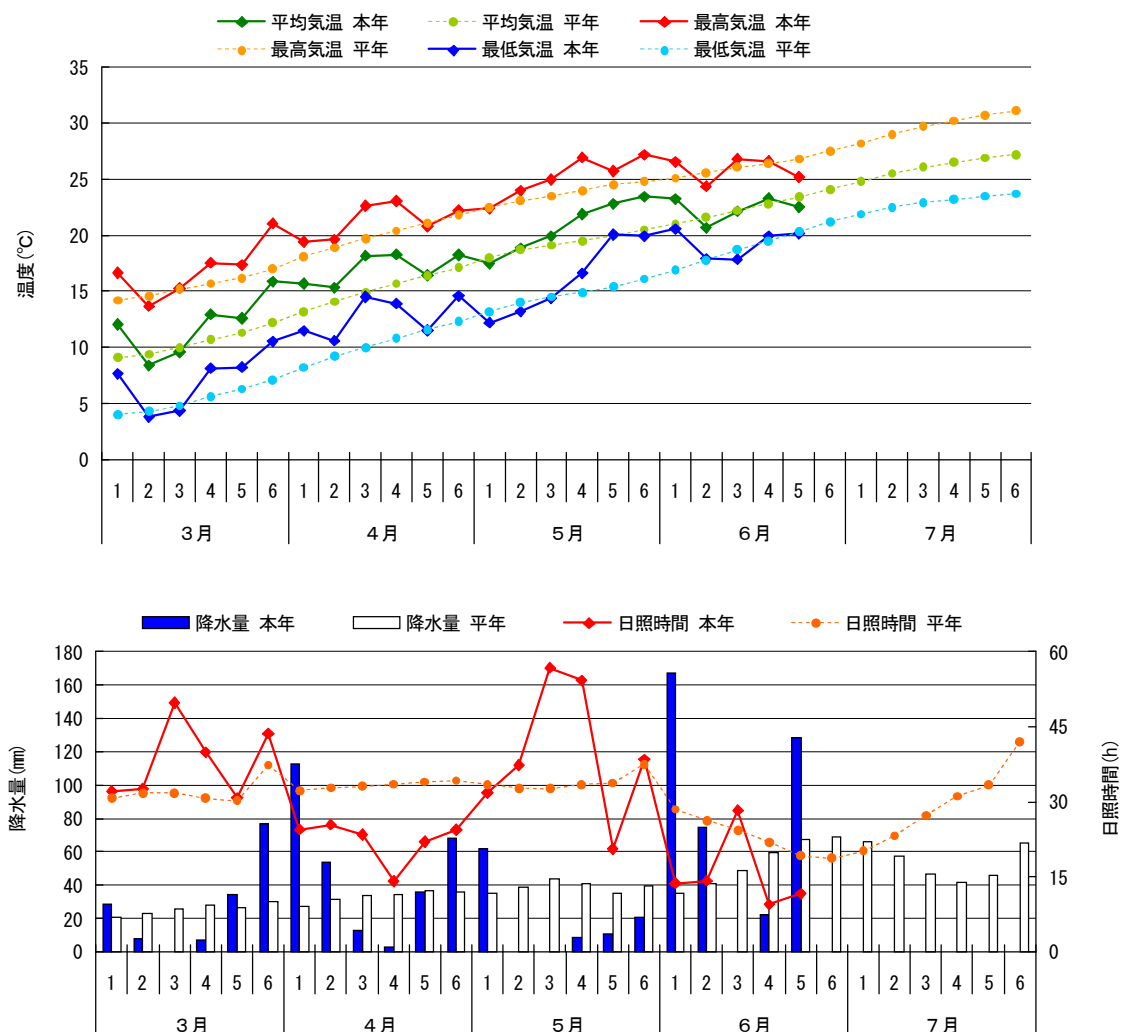


図 令和8年度 稲作期間中の気象条件(AMeDAS後免観測値)

2. これまでの病害虫発生状況

(1) 育苗期

苗立枯性病害： 一部で苗立枯病がみられた。発生は平年並み。

(2) 移植後

①葉いもち： BLASTAM による感染好適日は、5月21日に初めて確認され、その後6月第3半旬までは県内東部から西部の複数地点で確認され、病害の発生がみられた。さらに6月第3半旬以降は西部を中心とし県内全域で感染好適日が確認されており、既発ほ場を中心とする病勢の進展が懸念される。

②スクミリンゴガイ： 全体的に発生は平年並みで、一部で被害が報告されている。

③カメムシ類： 主に出穂後の圃場で発生が確認されている。

3. 今後の生育等に関する予想

(1) 出穂期

6月15日現在の普及課・所調査による幼穂長からみた出穂日および出穂予想日は、次のとおりである。

[平年値は過去5ヶ年平均、「+」は遅いことを、「-」は早いことを示す]

品 種 名		早 植		標 準 植	
南国そだち	稚苗	6/12	平年 -4 日 前年 -3 日		
よさ恋美人	稚苗	6/19	平年 -4 日 前年 -4 日		
コシヒカリ	稚苗	6/22	平年 -7 日 前年 -5 日	6/30	平年 -4 日 前年 -4 日
	中苗			6/28	平年 -7 日 前年 -10 日

注)早植：3月下旬～4月10日、標準植：4月11～20日に移植。

なお、農業技術センター気象感応試験の標準植(稚苗：4月15日移植)における幼穂長からみた「コシヒカリ」の出穂予想日は6月26日となっている。

(2) 収穫時期

6月15日現在の出穂状況及び予測値をもとに、今後の気象条件を平年並みと仮定して推計すると、下記のとおりと見込まれる(今後の気象条件により予想より遅れることもあり得る)。

南国そだち 7月17日頃最盛期(7月11日～7月23日)

よさ恋美人 7月27日頃最盛期(7月20日～8月4日)

コシヒカリ 8月2日頃最盛期(7月25日～8月12日)

(3) 収穫量

同じく、今後の気象条件を平年並みと仮定し、農業技術センター気象感応試験「コシヒカリ」の生育状況から収量の対平年比を試算すると、「97」の「やや少」と予想される。

4. 今後の管理

(1) 病害虫防除

- ①カメムシ類 : 斑点米の発生を抑えることを目的に、穂揃期（出穂5～10日後頃）に防除する。ただし、イネカメムシの発生が多い場合には、他の斑点米カメムシ類よりも早く、出穂期に防除を行うようにする。なお、近隣に異品種が作付けされている地域では農薬登録内容（使用時期）に特に留意する。また、休耕田・飼料畑や土手周辺の水田では発生状況に注意する。
- ②いもち病 : 粉剤・液剤等の茎葉散布は、穂揃期に行う。
- ③紋枯病 : 高温と降雨が続くとき（株内湿度の上昇時）、菌糸が株の上位に進展してくるので、特に過繁茂となった稲（「南国そだち」等で多）では、穂揃期に防除を行う。

(2) 適正な水管理

- ①出穂後10日目以降は間断灌水として、根の活力を維持する。
- ②収穫前の落水時期は、「南国そだち」「よさ恋美人」は出穂20日後頃、「コシヒカリ」は同25日後頃を目安とし、収穫作業に支障のない時期まで灌水を行う。収穫時期の天候が安定しないと見込まれる場合は、ほ場の地耐力を確保するために作溝を行う。

(3) 適期収穫

- ①早刈り : 整粒不足、極端な青米の混入は品質及び食味低下の要因となる。
- ②刈り遅れ : 胴割米や茶米の増加、光沢の劣化などによる品質低下の原因となる。
- ③収穫適期 : 一般的には籾全体の90%が黄熟した頃となる。作期・気象条件・品種などによって異なるが、「南国そだち」は出穂後32日、「よさ恋美人」は出穂後34日、「コシヒカリ」は出穂後35日頃を刈り取りの目安とする。なお、穂揃いの斉一でないほ場については、収穫時期の判定には特に注意する。

(4) 乾燥・調整

- ①異物害虫の混入防止 : 乾燥機や籾摺機は事前に清掃および調整を十分に行う。
- ②玄米水分(仕上げ) : 胴割米による品質低下を防ぐため14.5%を目標に仕上げる(過乾燥防止)。
- ③速やかな乾燥 : 収穫時の籾水分が高いので、炎天下の野積みを避け速やかに乾燥に移す(高温多湿条件下で籾を放置すると品質低下の要因となる)。
- ④乾燥速度 : 乾燥時の毎時乾減率は1%以下として急激な乾燥は行わない。
高水分時の急激な乾燥や過乾燥は、品質劣化(食味の低下・胴割米の発生等)の要因となり、また、経済的な損失ともなるので特に注意する。